

平成27年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	矢巾町立矢巾北中学校	TEL	697-1921
------	----	-----	------------	-----	----------

教科の枠を越えた校内研修の取組 ～1人1授業公開を通して～

【今年度の目標】

【国語】

- ・1学年では、定期試験で学年平均70点以上を目指し、正答率50%以下の生徒を30%以下にする。
- ・2学年では、文章の内容を的確にとらえながら要約したり、条件に従って作文したりする問いについて、正答率を10ポイント以上上昇させるとともに、無答率を10ポイント以上下降させる。

【数学】

- ・1学年 定期試験で正答率50%の生徒を30%以下にする
- ・2学年 定期試験で50点以下を35%以下とする。(2学期末試験は38%)
- ・3学年 定期試験で正答率70%以上の生徒を30%以上、かつ50%以下の生徒を40%以下にする

【英語】

- ・2年 ①読むことの領域の正答率を5ポイント以上上昇させる。
- ・3年 英語検定3級以上の力を持った生徒が30%以上を目指す。また、英語検定4級以下の実力の生徒30%以下を目指す。

【社会・2年】

- ・合計正答率50%未満の層を減少させ、学年全体の合計正答率50%以上を目指す。

【理科・2年】

- ・正答率50%以上の生徒層を増加させる。(生徒の割合65%以上を目指す)

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 授業の交流を行うことにより、指導過程の改善に取組み、「わかる授業」の構築に努める。
- 2 授業参観を行うことで、他教科での生徒の授業の様子を知ることができ、生徒理解に繋がる。

【具体的な取組】

1 各種調査の分析

(1) H27年度岩手県学習定着度状況調査結果の分析(1、2年生の実態)

1年生の正答率は、国語が県平均より0.1ポイント高く、数学は1.8ポイント高くなっている。得点分布では上位から中位の生徒が多く存在した。2年生の正答率は、5教科いずれにおいても県平均を0～4ポイント程度上回っていた。分布をみると、中位生徒が多く分布しており、下位の生徒の割合は県平均より少なくなっている。このことが平均正答率を高くしていると考えられる。

質問紙調査の「授業を楽しみにしているか」という質問に、肯定的に答えた1年生の割合は、社会では県平均を3ポイントほど下回っているが、全体的には県平均を2～4ポイントほど高くなっている。2年生では、「授業の内容がよく分かりますか」という質問は、県と比べると教科のばらつきが大きくなっており、県平均比「-9」～「+14」ポイントの範囲に広がっている。

(2) H27年度全国学力調査結果の分析(3年生の実態)

数学A、数学Bの平均正答率は全国平均より6ポイント低くなっている。「授業の内容がよく分かる」「まあ分かる」と答えた生徒の割合は60.8%で、県平均より5.3ポイント低く、全国平均より10.6ポイント低かった。国語の平均正答率は、A問題では全国平均より0.5ポイント低くなっており、B問題では全国平均より5.5ポイント低くなっている。「授業の内容がよく分かる」「まあ分かる」と答えた割合は63.4%で、県より13.8ポイント、全国より10.9ポイント低かった。理科の平均正答率は50.6%で、県平均より0.1ポイント低くなっており、全国平均より2.4ポイント低くなっている。「授業の内容がよく分かる」「まあ

分かる」と答えた割合は69.9%で、県より0.6%ポイント低くなっているが、全国より3.1ポイント高くなっている。

(3) 分析から見えた課題

正答率をみると、1年生はほぼ県平均並みであったが、2年生では県平均を上回っている。3年生では県平均、全国平均を下回っていた。また、2・3年生で「授業の内容が分かる」と答えた生徒の割合は、全国、県ほど高い値を示さず、県平均と比べて下回る教科もあった。

このことから、本校の生徒は、授業の中で「分かった」と実感できる機会が不足していることが考えられる。下位の生徒も含めた全ての生徒が「分かった」「できた」と実感できる機会を増やし、本校生徒の自己肯定感や自己効力感を高めていく必要があると考えられる。それが学習意欲の向上に繋がっていくのではないかと考える。

2 教科の枠を越えた校内研修の取組

教科の枠を越えた校内研修の取組として、「1人1授業」の授業公開の取組を考えた。授業公開するにあたって、簡単な指導案の作成、参観者による感想用紙の作成、写真記録をして参観していない教職員に紹介する。このような取組によって授業の改善を図り、生徒が「分かった」「できた」と実感できる機会を増やしていく。

(1) 授業改善

生徒が学習する際に、「わかる授業」の構築を目指していく。そのための視点として、課題の明確化、定着の把握、振り返りの取り入れ、言語活動の取組を設けた。この4点を授業参観者の感想用紙の視点にした。自分の授業を見直し、生徒が意欲的に学習に取組めるよう授業改善することで、全教職員の授業力向上に取り組んでいく。

(2) 教職員による授業参観

授業改善のポイントを意識した授業の展開（課題の明確化・定着の把握の工夫・授業の振り返り・言語活動の取組）を進めるために、評価用紙を作成した。授業参観者が授業を見るときにこの4点を設けることによって、授業者が指導案を作るときにこの4点を意識し授業を組み立てていくのではないかと考えた。

また、空き時間の教師が授業参観に行くことによって、他教科の授業の様子を知ることによって生徒の違った一面を知ることができる。生徒の授業の様子を知り機会を増やすことに繋がり、生徒理解に役立つと考えた。

さらに、教師が授業参観することにより、生徒の授業への集中力の向上も期待できる。

(3) 1人1授業公開

年に1回、それぞれ教師が都合のいい時期に授業を公開していく。空き時間の教師が参観に行く。

授業後に研究会は行わず、参観者が感想・改善点を文書でまとめ、授業者へ渡していく。具体的な手順を次にまとめた。

(Ⅰ) 授業公開の前日までに、A4判1枚程度の指導略案を作成する。

(Ⅱ) 当日授業公開時に、空き時間の教職員が参観し写真撮影も行う。（原則、研究部員が行う）

(Ⅲ) 参観者は授業参観用紙に記入する。→研究主任に提出する。

写真・指導案は、学校のサーバーの中に保存する。

(Ⅳ) 指導案、授業者のまとめ、感想用紙のまとめ、写真をレポートにまとめる。

(Ⅴ) 1人1授業公開日程（一部抜粋）

日 時	クラス	教 科	単元名
9月18日2校時	3年3組	数学	2次方程式の利用
10月19日6校時	2年1・2組(女)	保健体育	サッカー
10月27日5校時	3年1・2組(男)	保健体育	文化としてのスポーツの意義

(4) 授業公開による負担を軽減するための取組

授業者や参観者の負担を軽減するために、次のような対策を立て授業公開の推進を図った。

(Ⅰ) 指導案はA4用紙1枚とし、本時の目標・展開案を記載する。

(Ⅱ) 授業公開後に研究会は行わず、参観者による感想用紙の提出とする。

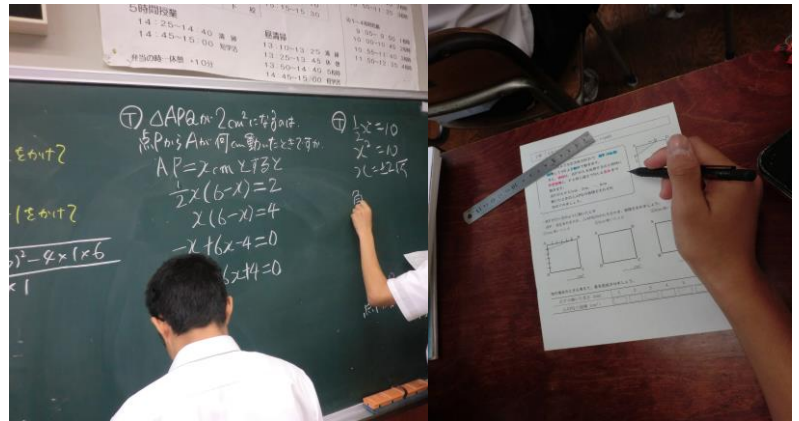
(Ⅲ) 写真・感想をまとめ校内で共有する。

(Ⅳ) 取組期間中でも、感想用紙の内容や指導案の形式、取り組みの進め方は変更していく柔軟性を持つ。

(5) 取組実践例

(A) 数学科 3年 2次方程式の利用

- ・ 図を提示して、考えやすくした。
- ・ 定着を確認するために、できた生徒に提出させ丸付けをした。
- ・ 思考を助けるために、プリントを用意した。



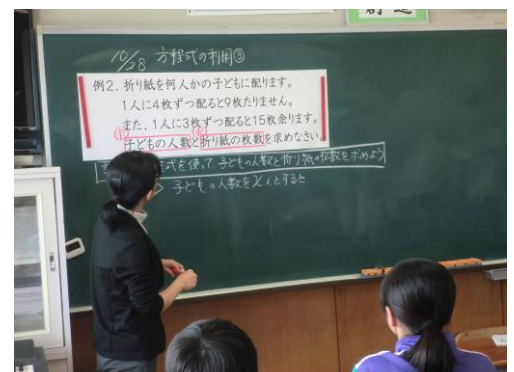
(B) 数学科 2年 多角形の内角の和

- ・ グループ学習（4人グループ）を取り入れ、四角形から八角形までの内角の和の求め方を説明する活動を行った。
- ・ 図形を提示して、視覚化を図った。
- ・ 表を用いて、n角形の内角の和を求める式を考えた。
- ・ 作った公式を実際に使って、公式の有用性を確認した。



(C) 数学科 1年 1次方程式の利用

- ・ 紙板書等を利用して課題の視覚化を行い、今日の学習課題を明確化させた。
- ・ グループ学習を取り入れ、式の作成やその理由を説明する活動を行った。
- ・ まとめをしっかり行い、本日の学習内容の振り返りを行った。



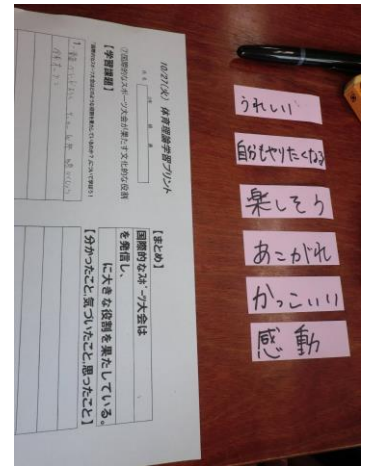
(D) 保健体育 2年女子 サッカー

- ・ グループ学習（4人グループ）を取り入れ、それぞれのドリブルの仕方の特徴を考えさせた。

- ・ミニゲームで勝つための作戦をチーム毎に立てさせた。
- ・作戦や技術面でうまくいった点を発表させ、共有化を図った。

(E) 保健体育 体育理論

- ・グループ学習（4人グループ）を取り入れ、ワークショップ形式で話し合いを行い、分類やまとめの活動を行った。
- ・パワーポイントで映像を利用し視覚化を行った
- ・まとめを見に黒板にまとめ、前に出て発表させ共有化を図った
- ・グループ内で役割を分担し、交代させながら活動に取り組ませた



☆教師のアンケートによる調査結果

	A	B	C	D
(1) 課題を意識してわかりやすく提示した	30%	70%		
(2) 定着度の確認を意識した	30%	62%	8%	
(3) 繰り返しやまとめを取り入れる	30%	62%	8%	
(4) 言語活動の取組を意識した	38%	62%		
(5) 生徒の学力が上がる取組であった	15%	77%	8%	
(6) 教師の意識に変化があった	23%	62%	15%	

このアンケート結果から、「授業改善」の意識が高まり、生徒の学力向上にも繋がっているという実感を持っていることが分かった。大切なことは、「学校全体」で「継続する」ことであるとする。

【成果○と課題●】

- 「わかる授業」を心がけ、授業力の向上を目指し、組織的に取組んでいく方向性がまとまっていった。
- 校内研究会を通じて、授業の工夫のポイントや校内研究の進め方を確認しながら取組を進められた。
- 授業公開したことによって、生徒の他教科での授業の様子を見ることができた。
- 授業を参観する教職員が少なかつたため、参観者の増加が課題である。
- 取組後の結果生徒の意識調査をし、授業がよく分かったと感じる生徒の割合を調査していく必要がある。
- 公開授業が後半（10月～1月）に偏ってしまい、取組が遅くなった。